

全国空襲連

会報 No. 1

全国空襲被害者連絡協議会

2010・11・5

共同代表：早乙女勝元、中山武敏、荒井信一、前田哲男、斎藤貴男

連絡先：〒131-0045 東京都墨田区押上1-33-4 中村ビル102 TEL/FAX 03-5631-3922

年会費：個人1口2,000円 団体1口5,000円

郵便振替：00130-8-623364（口座名：全国空襲被害者連絡協議会）

E-mail：tokyokusyuzokukai@ybb.ne.jp ホームページ <http://www.masaique-inc/test/zenkuren/>

全国空襲連の結成趣旨と目的、活動 国家補償、次世代の平和づくり 立法活動・署名、組織拡大と地域に活動拠点を

東京大空襲訴訟原告団と全国の空襲被害者やその遺族などが結集し、8月14日全国空襲被害者連絡協議会(略称・全国空襲連)を発足しました。

結成の趣旨は、戦争被害は国民が等しく受忍しなければならないという論理の否定と、再び戦争の惨禍が起こることのないように、次世代の平和づくりの運動体になることです。

目的は、①軍人軍属だけでなく民間空襲被害者(被爆者も含む)を補償する「空襲被害者援護法」(仮称)の制定をめざす。②空襲死者の調査、追悼など空襲被害者の人間回復をめざす。③戦争の惨禍をくりかえさぬために、核兵器の廃絶など各種の平和運動と連帶することです。

結成時の構成団体、個人は、約20団体と35人程度でしたが、10月末現在300件余の問い合わせがあり、現在加入確認と呼びかけをすすめています。

今後の活動は、東京高裁の控訴審、大阪地裁の裁判勝利への活動と一体となって、国家補償法制定の立法化活動が柱です。

具体的な行動では、国会議員・政党への立法化要請で11月19日(金)に懇談会と法制定への意見交換・学習会を開催します。裁判原告と国民との交流から、国民的な理解と支持拡大活動として、11月21日(日)に「連続公開フォーラム“未来につなぐ証言”の第3回講座」を開催します。なお署名については裁判の公正判決を求める署名と、立法化で「空襲被害者の人間回復のための立法を求める署名」の二件です。

そして、全国空襲連の最大重点は、都道府県ブロックに、活動拠点をつくることです。年会費と募金で支えてうださる会員と募金者の増です。空襲体験の語り継ぎ、記録運動を展開する中で、個人、団体とも会員増、募金者増へ努力することです。ご参加、ご協力をぜひお願いします。



全国空襲連の結成に300名を超える参加者があつた。「戦後65年、でも私に戦後は来ていません。今日やっと暗闇の中で一条の光を見出した思いです」の声も発表された。



全国空襲連第1回役員会(10・16)を開催して役員の性格、運営委員会の位置づけ、構成メンバーの確認ないし手立て、今後の運営と活動方向を検討しました(写真はその会場)。

空襲被害者の救済と補償をもとめる

全国空襲連 地域・ブロックの組織化 第1回役員会で提案

全国空襲連の第1回役員会を東京・すみだ女性センターで開きました。出席者は共同代表では中山武敏さん、荒井信一さん、前田哲男さんの三人の方でした。団体代表の役員として大阪空襲訴訟原告団・安野輝子さん、全国傷害者連絡会・岩崎建彌さん、百人の証言記録(千葉)・伊藤章夫さん、東友会・山本英典さん、東京大空襲訴訟原告団・星野弘さん、城森満さん、足立史郎さん、斎藤亘弘さんが出席でした。

会議の冒頭に中山共同代表がマスコミ、裁判状況をふまえ、戦後65年のいま、戦後補償のゆがみを正す、変える観点で言えば、いかに世論に訴え、理解者を増やすかであり、国会を動かす行動力が求められているとあいさつ。続いて出席者の自己紹介をし議案に入りました。

議案では役員の確認、運営委員の団体構成を配慮した推せんの再確認の手立て、活動重点としては、都府県、地域の活動拠点づくり等を提案して終りました。

次回は12月5日です。

全国空襲連の役員構成メンバー

●共同代表

- 荒井信一 (学者)
- 斎藤貴男 (ジャーナリスト)
- 早乙女勝元 (作家)
- 中山武敏 (弁護士)
- 前田哲男 (ジャーナリスト)

- 運営委員長 星野 弘
 - 副委員長 城森 満
 - 副委員長 安野輝子 (大阪空襲訴訟原告団)
 - 事務局長 足立史郎
 - 伊藤章夫 (百人の記録・千葉)
 - 岩崎建彌 (全国傷害者連絡会)
 - 山本英典 (東友会)
 - 名誉顧問・杉山千佐子 (全国傷害者連絡会)
- (注) 役員の増員は、大阪空襲弁護団など団体代表で予定しています。

●事務局体制

- 事務局長 足立史郎
 - 事務局次長 牛山鈴子、斎藤亘弘
- (注) 実務と対外折衝上、次長メンバーの増員を考えています。

●事務局スタッフ

- 会計担当、事務局補助 クック・晶子
 - 情報機関紙担当 西沢俊次
 - ホームページ・国会担当 浅見洋子
- 弁護団より役員会、事務局の補佐として
- 事務局補佐 = 柿沼真利、水田敦士
 - 国会担当補佐 = 内藤雅義、杉浦ひとみ

全国空襲連への入会状況

個人について 212名
団体について 21団体

<加入いただいた団体名>

- 東京都地域婦人団体連盟(川島露子)
- 社会民主党東京都連合
- JR 東労組東京地方本部
- 東京都原爆被爆者団体協議会(東友会)
- 東京大空襲訴訟原告団(星野 弘)
- 東京空襲犠牲者遺族会
- 東京大空襲訴訟を支援する会(小園優子)
- 全国傷害者連絡会(会長 杉山千佐子)
- 戦争孤児の会(金田マリ)
- 沖縄10・10大空襲・砲弾等被害者の会
- 神奈川・東京戦災傷害者の会(神山千代)
- 大阪空襲訴訟原告団(安野輝子)
- 新聞うずみ火(矢野 宏)
- 佐世保空襲犠牲者遺族会(岩村秀雄)
- 名古屋空襲を記録する会(犬飼忠雄)
- 半田空襲と戦争を記録する会(佐藤明夫)
- 秋田土崎港被爆市民会議(高橋 茂)
- 呉戦災を記録する会(朝倉邦夫)
- 前橋空襲を記録する会(藤森光男)
- 青森空襲を記録する会(今村 治)
- 平和を願い戦争に反対する戦没者遺族会

(注) 機関決定、会費納入団体 (10月20日現在)

総会に次ぐ決議機関の 運営委員会の運営と開催 について

第1回役員会は、会則に基づく役員会の名称と性格、運営委員会については位置づけについて話し合われました。

役員会は、会を代表して会務を処理、執行する機関です。総会および運営委員会の決議を執行し、緊急業務を処理することがあり、決議機関の総会、運営委員会にたいし、処理執行した会務を報告し、各種議案を提出し、会務の運営につき責任を負います。

運営委員会は、総会に次ぐ決議機関で、総会から次の総会までの間に、通常の団体なら3~4回開催します。しかし当団体の性格と財政上から多くは開催できません。1, 2回の開催ができるいいと見るしかありません。

その運営委員を自選、推選で、東京空襲原告団を中心に40名程のメンバーをほぼ把握していますが、あらためて団体構成等を考慮し推せん団体、個人から運営委員の人選についてご配慮を求める際に、積極的に運営委員になっていただこう、お願いします。

未来につなぐ証言

講座は、今年の九月から来年の七月までの十回（二月は休講）。毎月一回開講します。空襲体験者の声をさまざまな角度から聞く五回連続のパートIに続き、パートIIでは海外の作品を含め、空襲の恐ろしさを描き出した優れたドキュメンタリー映画などを鑑賞、コメントで分析する五回連続のパートIIです。



国会議員と全国空襲連

11・19院内集会

第1部 懇談会 第2部 学習会・意見交換

日時 2010年11月19日（金）10:30～16:00
場所 衆議院第2議員会館

開催要領案

集合場所：衆議院第2議員会館

集合時間：役員・原告は10時30分

その他方は11時20分に集合して下さい。

1部 懇談会

- 一、原告団代表あいさつ
- 二、弁護団代表あいさつ
- 三、国会議員代表あいさつ

四、懇談 進行担当

- 1、空襲被害者援護法の立法における焦点（説明）
- 2、被害者からの要望
- 3、国会議員からの質問と意見（出席の先生全員）
- 4、意見交換
- 5、まとめ

— 休憩・昼食 —

2部 学習会・意見交換

- 一、講師のお話
- 二、意見交換、まとめ
- 三、閉会のあいさつ

第2回講座は47人参加

第2回講座は、神戸大空襲の戦災孤児、元中学校教員の山田清一郎さんが「俺たちは野良犬だったのか」のお話で感動を与えました。

前回39人の参加でしたが、第2回は47人参加になりました。

連続公開フォーラム「未来につなぐ証言」の聴講を呼びかけて下さい

【場所】 大阪経済法科大学東京麻布セミナーハウス・2階大研修室（東京メトロ日比谷線神谷町駅1番出口より徒歩3分）

第1講 早乙女勝元さん 戦火と飢えと外米 — 東京大空襲とベトナム —

都市空襲の恐ろしさを一般の人たちや学生など若い世代にもっと知らおうと連続公開フォーラム「未来につなぐ証言」が9月26日、東京都港区の大学研修施設で開講した。

同フォーラムは東京大空襲をはじめとする都市無差別爆撃の被災者の証言や当時の記録映画などを通じて、空襲の歴史を学び考える入門講座。研究者らで作る都市空襲研究会が主催し、東京大空襲訴訟原告団の協力を得て開講された。来年7月まで12月を除き毎月1回、計10回開かれる。

第1回目のフォーラムでは大空襲訴訟原告団の星野弘団長、大空襲訴訟弁護団の中山武敏団長からの祝辞に続き、作家の早乙女勝元さんが「戦火と飢えと外米～東京大空襲とベトナムと」と題し講演した。

早乙さんは空襲と空腹の日々を過ごした少年時代を振り返りながら、戦時に国民が食べていた外米は日本がベトナム人から奪ったベトナム米も含まれ、その結果、多くのベトナム人が餓死した事実を具体的なデータを示して話した。

「戦争末期、米輸入の大半は現在のベトナムからでした。日本政府は日本の民間人を粗末に扱ったように、飢餓に苦しむベトナム人を見捨ててきたことを重視したい」自身が戦後知った加害者の一人として突きつけられた問題に触れ、早乙さんは講演を締めくくった。

【写真説明】空襲の日々を振り返りながら、少年時代に食べた外米について講演する早乙女勝元さん